老朽化に立ち向かう

トンネル、橋梁、道路の補修に取り組む人々を追った

山崎エリナ最新の写真集

グッドブックス

ISBN978-4-907461-21-8
C0072 ¥2000E

9784907461218

定価：本体2000円（税別）
株式会社グッドブックス

1920072020005

Infrastructure Maintenance

YAMASAKI Elina

私が代表を務める建設トップランナー倶楽部では、各地で社会基盤を支えている地域建設業の方を「インフラの町医者」と呼んでいます。インフラの町医者は、日頃から自分の町のインフラを見守り、具合の悪いところを見つけ、予防保全や補修をします。
わが国では、戦後に作られた膨大な社会基盤の老朽化が進み、インフラのメンテナンスが課題となっています。地震、豪雨、洪水、土砂崩れ、高潮、台風なども激化しています。
このような厳しい状況にあっても、地域を健全な形で次の世代に引き継ぐことが、地域建設業の使命です。
この素晴らしい写真集が、インフラの町医者の役割と使命を正しく伝えるきっかけになることを願っています。

建設トップランナー倶楽部代表幹事／慶應義塾大学先導研究センター特任教授　米田雅子

道のネットワークと
インフラの町医者

建設トップランナー倶楽部代表幹事
慶應義塾大学先導研究センター特任教授　米田雅子

身近なのに知られていない建設業

建設業はだれにとっても身近な仕事です。建物、道路、トンネル、橋……至るところに作ったものがあります。一見、自然のままに見える山、川、海、田畑にも建設業の手が入っています。しかし、その実情は意外なほど知られていません。

土砂崩れで塞がった道に真っ先に駆けつける建設業の男たち、台風の中でずぶ濡れになりながらパトロールする建設技術者、寒い冬に朝3時から除雪車を動かす作業員たち……。人々が快適に安全に暮らせるように、地域の建設業は縁の下の力持ちとして働いています。

インフラは整えば整うほど、そのありがたさを忘れられるといいます。「蛇口をひねれば水がでる。スイッチをいれれば電気がつく。雨水が下水に流れていく。」これらは当たり前のように見えて、当たり前ではありません。縁の下の力持ちのおかげです。都会で新鮮なおさしみが食べられるのも、漁港、道路、市場などのインフラが健全に維持されているおかげです。この中でも特に道路は重要です。大都会では地下鉄などの公共交通が発達していますが、地方は車社会で、道路は人々の生命線となっています。地域建設業はインフラの守り手として、道路のメンテナンスを続けて、私たちの社会や生活を支えています。

平常時には気づかなくとも、非常時になれば人々は道路の有難さに気づきます。東日本大震災の時に復旧に向けて真っ先に立ち上がったのは、地元の建設業でした。建設業者は自ら被災しながら、早い地域では発災当日の夕刻頃から、余震が頻発する中で、瓦礫を撤去して道を開く啓開作業を開始しました。自衛隊や消防・警察が救助に向かうためには、通り道を確保することが先決だったからです。

災害時には、自衛隊やボランティアなどの活動がメディアで放映されます。でも地域建設業の活躍を伝えるメディアは少ないように思います。私が地方建設専門紙の会の方々と共に、平成24年1月に『大震災からの復旧―知られざる地域建設業の戦い』を出版したのは、地域建設業の真摯な働きを記録すると共に、地域建設業の役割を世間に伝えたかったからです。

異種の道ネットワーク

道路といえば、国道・地方道の公道を思い浮かべます。ところが、地図に掲載されず市町村にも把握されていない道があります。農業の道、林業の道、電力管理道、通信管理道などの民間の道、国有林林道、砂防施設管理道などです。

多くの人は、自分の住んでいる地域にどのような道があるのか、当然市町村が把握していると思っています。ところが市町村が把握しているのは公道だけで、民間の道や国有林の道は把握していません。実際

に、岐阜県高山市・下呂市で、航空測量で実在するすべての道を調べたところ、こんなにもたくさん道があるのかと地元の方に驚かれました。私は、どこにどんな道があるのか、道のすべてを洗い出して異種の道の地図を作ることを提唱しています。

東日本大震災では、大津波によって沿岸の道路が寸断され、多くの集落が孤立状態となりました。その際、地域住民の「命の道」となったのは、集落山側の林道、農道、林業作業道など、地図に載っていない道でした。助かった人から「津波がきたら、高いところに逃げればよい。山の中のどこに道があるかを調べておいて、民間の道でも林業の道でも、あるものは何でも使って避難すればよい」と聞きました。

南海トラフ地震の避難道、土砂災害による孤立集落を防ぐ迂回路として、異種の道のネットワークの活用が期待されます。どこにどのような道があるかを示す異種の道の地図があれば、避難の選択肢が広がります。

災害時に道路がつながれば、人や物が動き、救援物資を運ぶことができます。道路が塞がれば助けることができません。道路にはネットワークが重要です。一つのルートが寸断されても、他のルートを使うことができれば、社会の機能は維持できます。地域建設業の方々には、主要な道路ネットワークに加えて、異種の道のネットワークにも関心を持っていただきたいと思います。

インフラの町医者を育てよう

私が代表を務める建設トップランナー倶楽部では、各地で社会基盤を支えている地域建設業の方を「インフラの町医者」と呼んでいます。インフラの町医者は、日頃から自分の町のインフラを見守り、具合の悪いところを見つけ、予防保全や補修をします。災害に備えて防災施設を整備し、災害時には応急復旧工事をおこない、二次災害の拡大を防ぎます。そこにいるだけで地域の方に安心していただける存在という意味を込めて、町医者と呼んでいます。

わが国では、戦後に作られた膨大な社会基盤の老朽化が進み、インフラのメンテナンスが課題となっています。地震、豪雨、洪水、土砂崩れ、高潮、台風なども激化しています。このような厳しい状況にあっても、地域を健全な形で次の世代に引き継ぐことが、地域建設業の使命です。ＩＣＴを活用したメンテナンス技術の向上、インフラの予防保全･長寿命化対策に加え、次の町医者を育てることが喫緊の課題となっています。

この素晴らしい写真集が、インフラの町医者の役割と使命を正しく伝えるきっかけになることを願っています。